

科目名	刑事政策	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			法学部	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Criminal Policy	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	えびさわ すすむ	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	海老澤 侑	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	犯罪学で学んだことをもとに、適切な犯罪者処遇についての知見を習得する。			
到達目標	受講者は、本講義を履修することで、日本における犯罪情勢を理解し、その対策について説明することができるようになる。			
授業概要	<p>本講義は、犯罪白書なども用いて現代日本における犯罪情勢を理解するとともに、犯罪対策一般について学習する。その後、犯罪被害者の保護や、少年非行などの具体的な各種犯罪の原因と対策についても学習する。</p> <p>毎回、講義の終わり 10～15 分を使って、学んだ内容、コメントを書いてもらう。</p> <p>受講者の希望により外部の専門家に講演をお願いすることもある。</p>			
授業計画				
第 1 回	導入 刑事政策とは何か、統計データの紹介			
第 2 回	社会内処遇			
第 3 回	財産刑			
第 4 回	刑の量定① 手続き、基準			
第 5 回	刑の量定② 具体的内容（殺人、性暴力）			
第 6 回	保安処分・不定期刑			
第 7 回	少年法① 少年法の運用実態			
第 8 回	少年法② 少年法改正			
第 9 回	犯罪被害者への支援			
第 10 回	性犯罪① 性暴力犯罪に対する対応			
第 11 回	性犯罪② 性風俗犯罪に対する対応			
第 12 回	ファミリーバイオレンス① DV			
第 13 回	ファミリーバイオレンス② 児童・高齢者虐待			
第 14 回	組織犯罪			
第 15 回	交通犯罪			
第 16 回	定期試験			
授業時間外の学習	各回の講義で扱う内容について教科書の該当箇所をあらかじめ読むこと（予習：90分） 講義時に紹介した資料について図書館、インターネット等を使って確認すること（復習：90分）			
履修条件 受講のルール	教科書を読み進めつつ、適宜資料を提示するスタイルをとるため、毎回必ず教科書を持参すること 刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、犯罪学の単位を修得済みであることが望ましい 履修者に求める受講態度については、初回の講義時に説明する			
テキスト	岩井宜子他『刑事政策【第8版】』（令和7年、尚学社） 最新の知見について、別途資料を配付することがある。その際は、原則ポータルサイトを通じて配付するため、講義前は常にポータルサイトを確認するようにしてほしい。			
参考文献・資料	法務省法務総合研究所編『令和6年版犯罪白書』（令和7年、日経印刷） 紙媒体で販売されているが、法務省HPにPDF版が無料で公開されている。			

	<p>国家公安委員会＝警察庁編『令和6年版警察白書』（令和6年、日経印刷） こちらも紙媒体で販売されているが、警察庁HPにPDF版等が無料で公開されている。</p> <p>武内謙治＝本庄武『刑事政策学』（令和元年、日本評論社） 前田忠弘他『刑事政策がわかる〔改訂版〕』（平成31年、法律文化社） 守山正＝安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第3版補訂版】』（令和5年、成文堂） 川出敏裕・金光旭『刑事政策【第3版】』（令和5年、成文堂） その他、講義時に紹介する。</p>
成績評価の方法	<p>期末試験60%、各回のコメントペーパー40% その他、講義時の質疑応答の内容により平常点を加えることもある ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜、水曜の14:40～16:10を設定しているが、研究室（海老澤研究室）に在室中は、いつでも来訪を歓迎する。 時には、講義で学んだこと以外についての疑問・意見提示、あるいは雑談をしたい際も、来室してかまわない。</p>
成績評価基準	<p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>内容によっては、これまで常識と思っていたものが誤りだったと気付くこともあるかもしれない。これを実感するために、常に新聞等で情報収集に努め、講義で学んだことと比較してほしい。</p>